公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャレンジハウスHERO		
○保護者評価実施期間	R7年 3月 1日		～ R7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	R7年 3月 1日		～ R7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 4月 12日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室内での活動はもちろん、屋外での活動を週一回以上取り組み、楽しんでご利用いただける環境を整えていること。	学校や園がお休みとなる祝日や週末に遠足やお買い物の日などの外出行事や平日でも近くの公園へ行ける環境を整え、まず楽しむことを第一にご来所いただいている。	子どもたちに遠足先を考えてもらったりと主体的に取り組める環境を整え、楽しみを自ら作る成功体験を積めるようにしていく。
2	各々のニーズに合わせたプログラムの作成、療育を通して個々の成長をより促し、将来に繋がる経験を重ねていること。	個別支援計画に沿ったSSTに加え、運動やコミュニケーションなど各々の苦手とする部分に着目し、個別支援を進め子どもたちの出来る事を日々増やしている。	子どもたちのできたを逐一保護者様と共有し、新たな達成目標を設けたり、スモールステップで進んでいけるよう本児とも話し合いながら無理なく進めていく。
3	季節毎の行事、プログラムの実施から様々な体験が出来る機会がある。	お花見や夏祭り、ハロウィンやクリスマスパーティなど四季から取り入れられる季節毎の行事、またひな祭りや着付け体験等日本特有の文化にも触れることのできる取り組みを行っている。	それぞれの行事の意味やなぜ今まで続いてきているのか等文化理解の時間を増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所での活動に同じものや子どもたちの評判の下がったものを入れ続けられないようにしていること。	年齢層や子どもたちの興味関心、テンション等日ごとに代わる事もあり、集中して取り組むことが出来ない日が出てくる。	子どもたちの興味、楽しみを引きながらできる新しい活動の提案、実行を繰り返し色々な事にチャレンジできる環境を整える。
2	記録書類等の事務作業の効率化。	デジタルに不慣れなスタッフの負担、もっと子ども達との関わる時間が欲しい、優先したいという思い。	業務分担の見直し、デジタル導入前に丁寧なレクチャーを行い慣れるまで紙媒体の併用。記録も大切な支援の一つとして意味づけや評価を共有しスタッフの育成をする。
3	事業所の環境整備の見直し。	危険につながるもの等は子どもの視界、手に触れないよう管理は行っているが、子どものイレギュラーな動きに焦ってしまう事がある。	安全確保を第一優先で、配置のレイアウトを行い活動がしやすい、切り替えやすいようにすることで危険リスクを軽減し見通しを持ちやすい配置で安心感に繋げる。